

しっかり積み立て 安心で豊かな老後を！

農業者年金 加入推進事例集

vol.17



全国農業委員会ネットワーク機構
一般社団法人 全国農業会議所

農業者年金制度のポイントと魅力

1 農地の権利名義に関わりなく加入できる

- 加入資格は65歳未満、年間60日以上農業従事、国民年金第1号被保険者（ただし、60歳以上は、国民年金の任意加入被保険者）

2 少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型

- 将来の自分の年金の原資は自分で保険料を積み立てて準備するため、加入者・受給者数に左右されない安定した財政方式

3 保険料は経営・家計状況により自由に設定

- 月額2万円（35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円）～6万7千円の間で千円単位で選択、途中で増減も可能
- 加入脱退は自由。途中脱退した場合は、加入者が支払った保険料とその運用益を将来、年金として受給

4 終身年金で80歳までの保証付き

- 原則65歳から生涯、年金を受給。仮に80歳前に亡くなっても、80歳までに受け取れる予定であった農業者老齢年金の現在価値相当額が、「死亡一時金」として遺族に支給

5 支払保険料の全額社会保険料控除で節税

- 所得税・住民税が節税となるほか、農業者年金基金が運用して得られる運用益も非課税

6 保険料の国庫補助（政策支援）

- 認定農業者で青色申告者のほか、それらの者と家族経営協定を結んでいる配偶者や後継者など一定の要件を満たす者が補助対象
- 国庫補助額と運用益による年金（特例付加年金）の受給には「経営継承」が必要
- 政策支援加入者の保険料は月額2万円に固定

7 安全重視の効率的な運用（運用手数料なし）

- 長期にわたり資産構成割合を定め、これを維持するよう安全・効率的に運用
- 2002年度～2023年度までの22年間の年平均運用利回りは年率3.05%

8 個人の運用状況が「目に見える」

- 毎年6月末、自分の年金資産の積立・運用状況として付利通知がご本人に通知されます

9 運営経費は国庫負担

- 事務経費（人件費や施設費等）は、国が負担しているため、加入者の負担なし（納めた保険料の全額が年金原資になる）

は じ め に

国民の平均寿命は、2023年には男性が81.09歳、女性は87.14歳（厚労省「簡易生命表」）になっています。また、65歳になった人の平均余命は男性19.52年、女性24.38年で、男女共に90歳前後まで長生きする社会となっています。世界でもトップクラスの長寿国です。厚労省の2023年9月の発表によると、100歳以上の人が9万5,119人（うち女性が88.3%）になりました。いまや「人生100年時代」が現実のものになりつつあります。

長生きの備えは終身保障の年金に勝るものではありません。国民年金に上乘せる農業者年金は、農業者の老後生活の安定には欠かすことができない制度です。将来の自分の年金の原資を自分で積み立てる「積立方式」（確定拠出型）の新たな制度として、2002年にスタートして22年が経過しました。

この間、農業委員会関係組織およびJA系統組織、農業者年金協議会、独立行政法人農業者年金基金が連携して加入推進に取り組み、加入者累計は2021年7月末に13万人を突破しました。

本書は、農業者年金の加入の取り組みに大きな成果をあげた農業委員会およびJAの取り組み事例を紹介しています。また現場で汗を流し成果をあげた加入推進部長などリーダーの方々の取り組みのほか、加入者、受給者の安心と喜びの声も収録しました。農業者への制度の周知や加入者を増やすためのノウハウ、工夫、現場の知恵など、学ぶべき点が多々あります。

掲載事例等は情報誌「のうねん」（2024年1月号～11月号）に掲載されたものです。一部加筆修正したうえで1冊にまとめました。

本書が、農業者年金の加入推進活動に携わる農業委員会関係者、加入推進部長、JA関係者、農業者年金協議会関係者に広く活用され、活動成果につながれば幸いです。

最後に、現場での取り組み状況についてお聞かせいただいた関係者、加入者、受給者の方々にお礼を申し上げます。

2024年11月

全国農業委員会ネットワーク機構
一般社団法人 全国農業会議所

目次

I

加入推進の取組事例

- 1 北海道 JAながめま・長沼町農業委員会 4
日頃のきめ細かい活動が
加入実績の成果につながる
- 2 福島県 福島市農業委員会 8
農業委員を中心に編成した
地区別加入推進班が推進
- 3 茨城県 鉾田市農業委員会 12
農業委員らの声かけ、戸別訪問が
新規加入者の増加につながる
- 4 栃木県 JAはが野 芳賀支店・芳賀町農業委員会 16
JAの担当者が声かけ、戸別訪問
後継者、女性を中心に推進活動
- 5 長野県 長野市農業委員会 20
農業委員会が新体制作り
積極的に加入推進活動
- 6 大分県 豊後大野市農業委員会 24
加入対象者への積極的な
働きかけが奏功

II

私の加入推進

- 1 福島県 福島市農業委員会元会長職務代理者・元加入推進部長
大宮 篤司 さん 28
区域別加入推進班で加入推進
戸別訪問で粘り強く制度説明
- 2 神奈川県 山北町農業委員
杉山 照枝 さん 30
女性農業者こそ農業者年金に加入を
- 3 岐阜県 中津川市農業委員・加入推進部長
後藤 展子 さん 32
加入推進部長を中心に
事務局と一緒に加入推進

4	京都府 京丹波町農業委員会事務局専門幹 永武 幸子 さん	34
	制度などをわかりやすく説明した 独自のファイル作成し加入推進	
5	JA全国女性組織協議会理事 中川 苗保子 さん	36
	老後の安心感につながる農業者年金	
6	JA全国女性組織協議会理事 佐藤 佑美 さん	37
	積み立てた保険料が年金になる仕組みが魅力	

Ⅲ

加入者の声

1	岩手県宮古市 久保田 智治 さん	38
	積立方式で運用益と合わせて 生涯受給できるのが最大の魅力	
2	広島県大崎上島町 西田 瑛美 さん・裕輝 さん	39
	夫と家族経営協定を結んで加入 節税効果など経営面でメリット	

Ⅳ

受給者の声

1	石川県能美市 北野 哲 さん	40
	老後資金を確保するためにも 国民年金の上乗せ年金は必要	
2	島根県安来市 二岡 嘉昭 さん	41
	年金受給のありがたさを実感 孫の就農で一緒に働ける喜びも	

参考資料

1	2023年度農業者年金事業表彰・受賞受託機関	42
2	年金資産（被保険者ポートフォリオ）の運用利回りの推移	46
3	平均寿命の年次推移・主な年齢の平均余命	47
4	世界の平均寿命ランキング（男女別）	48

加入推進の取組事例 1

北海道 JAながめま・長沼町農業委員会

2023年度新規加入者 12人

【柴田佳夫代表理事組合長／高宮徹会長／農業委員17人】



日頃のきめ細かい活動が 加入実績の成果につながる

活動事例のポイント

- ❶ 独自のチラシを作成して対象者に配布
- ❷ JAは出向いていく相談体制を構築
- ❸ 農業委員会はHPに年金コーナー開設

新規加入者数の推移 (単位: 人)

	全体	男性	女性
2018年度	6	4	2
19年度	4	4	0
20年度	5	4	1
21年度	3	2	1
22年度	6	4	2
23年度	12	8	4

長沼町は、北海道の石狩平野の南東部に位置しており、札幌市から車で約50分、新千歳空港からは約30分の距離にあります。農業の町として知られています。長沼町の耕地面積は約1万1,200ヘクタールで、そのうち田が約9,000ヘクタール、畑が約2,170ヘクタールです。町内の農家戸数は566戸で、一戸当たりの平均経営耕地面積は約19.8ヘクタールです。

長沼町の農業は、水田農業が約80%を占めています。水稻作が古くから展開されてきましたが、近年は需要に応じた米の生産調整や転作作物の導入など、変化があります。主要作物は水稻、大豆、小麦です。また、地理的条件を活かした野菜の生産も行われています。

JAは「出向く相談体制」を構築 農委会はHPにコーナー開設

長沼町の農業者年金の新規加入者は、ここ数年5人前後で推移していましたが、2023年度は12人と大幅に増えました。経営移譲や経営継承のタ



農業者年金の加入推進に励むみなさん。前列左から農業委員会事務局の福田栗子さん、高宮徹会長、JA ながめまの澤田瞳さん。後列左から農業委員会事務局の市村智継事務局長、JA ながめまの高瀬智徳経営相談課長

イミングなどで後継者や妻の加入が増えたためと分析。JAながめま金融部経営相談課の澤田瞳さんは「ご夫婦での加入が2組いたことも大きいです」と話してくれました。

JAながめまと長沼町農業委員会では加入推進名簿や配布資料を共同で作成するなど連携を図っています。現在、名簿には190人が登録されています。

JAながめまでは、2018年から地区担当による「出向く相談体制」を行っています。これは営農から生活まで幅広い相談を展開しています。JAながめまの高瀬智徳経営相談課長は「出向くだけでなく、窓口でもポスターを掲示したり、チラシを置いて制度の周知や相談に対応しています」と語ってくれました。加入推進の強化月間は設けずに、日ごろの活動の一環として加入推進活動をしています。

長沼町農業委員会では、ホームページに「農業者年金への加入をお勧めします」というコーナーを作り、農業者年金の制度などについて掲載しています。市村智継事務局長は「農業者に出向いていくことは少ないのですが、ホームページに掲載することで農業者年金の周知につながれば」と期